

佳作

## 勝ちよるいび

茨城県 日立市立宮田小学校四年 小又創

ぼくは、ちようど一年前から空手を始めています。それまで、スポーツにあまりきよう味がなく、何もしていなかったけど、友達からさそわれて、空手道スポーツ少年団に入団しました。

入団初日、まずは道着をかりて着ました。生地があつくて重くて、八月の体育館はとっても暑かったけど、真っ白な道着はかっこ良く見えました。そして帯をしめると、気合が入ったような、気持ちがいいキリッとして、少しきんちようしたのを今でもはつきりとおぼえています。空手は礼ぎを大事にしていて、練習場への出入りのあいさつと、練習の始めと終わりのあいさつの仕方をまず教えてもらいました。年ではなく、空手の級で上下関係がしっかり決まる事が分かりました。

練習内ようは、き本のつきやけりから始まり、形しい気持ちがあふれてきました。人ときようそうする事なんてなかったし、運動会で負けてもこんなにくやしい思いをしたのは初めてでした。

あのし合から、ぼくはそれまでい上に練習に力を入れていきます。足の親指には水ぶくれが次から次へと出来、いつも皮がむけていたけれど、練習のあかしだと思うと少し鼻が高いです。そして、二回目の大会では一勝する事ができました。本当にうれしくて、観客席にいる家族の元まで走って行きました。

みんなが「おめでとう。」

と言ってくれました。空手は、ぼくに「勝つよるこび」を教えてくださいました。これからももっと練習をがんばりたいです。

と組手をやります。空手は野球やサッカーのように走り回らないので、そんなに体力は必要ないんじゃないかと思っていましたが、やってみると、きん肉がないと強いつきや高いけりが出せない事が分かりました。毎回、練習前のじゅんび運動では、ダッシュや縄とび、ストレッチなどできん力作りに汗を流しています。

入団して三か月、しよう級しんさがありました。形を必死におぼえて、間ちがえないように、ちゃんど気合いの声が出せるように練習しました。結果は合かくでした。とてもうれしかったです。それからもっと練習をして、初し合になりました。ぼくの初せんは市の大会で、選手も観客もたくさんいました。ドキドキ、ワクワク、早く自分の番にならないかと楽しみに待っていました。名前がよばれてコートに立つと、世界が変わりました。ぼくをすみずみまで見るしんぱんの目や、おうえんしてくれる家族と友達の声に、頭の中は勝つぞという気持ちだけになり、笛の合図とともにむ中で形をえんじました。長かったような、あつという間だったような、礼をするとしんぱんの旗が上がりました。ぼくは負けでした。気が付くとなみだを流していました。そして、くや